

「信州大学航空機システム共同研究講座」の運営を支援する コンソーシアムの立ち上げについて

産業経済部工業課

1. これまでの経過

平成 29 年 4 月開設を予定する「信州大学航空機システム共同研究講座」の運営を支援するコンソーシアムの設立に向けて準備会を組織し、検討を進めてきた。

○ 準備会の構成員

信州大学、長野県、(株)八十二銀行、飯田信用金庫、長野銀行、多摩川精機(株)、南信州広域連合、飯田市、(公財)南信州・飯田産業センター

○ 準備会の内容

- ・第1回 平成 27 年 10 月 9 日 (金)
内容：準備会の役割、研究講座の構想 ほか
- ・第2回 平成 27 年 11 月 9 日 (月)
内容：講座の運営について、コンソーシアム規約(案) ほか
- ・第3回 平成 27 年 12 月 24 日 (木)
内容：運営に係る経費について、コンソーシアムの設立時期について ほか

2. 信州大学航空機システム共同研究講座の概要について(別紙資料参照)

- ・飯田地域(知の拠点：旧飯田工業高校)に信州大学のサテライトキャンパスを設置し、航空機システムの研究開発と高度人材育成を行う。(学部生、社会人学生の受け入れ)
- ・信州大学内に航空宇宙システム研究センターを設置し、航空機システム共同研究講座が行う研究内容に応じて必要な支援(専門教授の派遣等)を行う。
- ・共同研究講座は平成 28 年度を準備期間として、平成 29 年度から平成 32 年度までの 4 年間実施する。

3. 共同研究講座運営に必要な経費の概算見込み(4年間：H29～H32)

項目	金額(万円)	備考
専任教授人件費	4,000	1,000万円×4年
特任教授人件費	2,000	500万円×4年
コーディネーター人件費	1,500	4年
研究費	500	H29のみ
事務費、施設経費等	1,000	250万円×4年
合計	9,000	

※ 平成 28 年度の準備に要する経費(人件費等)に充てるため、14 市町村から産業センタ

一へ負担金 1,000 万円を支出する。(地方創生先行型交付金)

4. コンソーシアムの役割 (目的)

- ・ 講座運営に必要な資金を確保すること
- ・ 講座開設準備、情報発信、信州大学と企業の橋渡し役

5. 信州大学南信州キャンパス構想について (別紙資料参照)

- ・ 共同研究講座 4 年間の実績を評価し、その後の将来性を見極める中で、信州大学が設置する「先鋭領域融合研究群」の一つに格上げとなる可能性も秘めている。
- ・ 航空機システム分野のみならず、バイオをはじめ新分野の共同研究講座への広がりも期待される。
- ・ まさに、当地域が切望する高等教育機関設置の第 1 歩として期待できる。

6. 専任教授について

- ・ 氏名：柳原正明氏 (東京大学鈴木真二教授からの紹介)
- ・ 役職：宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 航空技術部門 基盤技術統括 工学博士
JAXAの基礎・基盤技術研究における 122 名の技術者を統括
- ・ 平成 27 年度末で JAXA を定年退官
- ・ 平成 28 年度はコンソーシアムに属し、JAXA との併任により、講座開設準備と研究分野の調整を行う。
- ・ 平成 29 年度からは共同研究講座の専任教授として業務にあたる。(JAXA の併任継続)
- ・ 柳原先生を介して、研究開発面での JAXA と信州大学あるいは地域内企業との関係を構築できる。

7. 平成 28 年度の取り組み

- ・ 柳原先生と信州大学による講座開設準備 (カリキュラムの検討等)
- ・ 柳原先生と地域企業による共同研究テーマの調査
- ・ 講座を周知するシンポジウム等の開催
- ・ コンソーシアムの会員募集、寄付の募集 (募集方法検討)
- ・ 構成メンバーの負担額の決定と負担方法の協議
- ・ 知の拠点における講座開設に向けた施設設備の整備

8. 当面の予定

- ・ 3 月末に、発起人によりコンソーシアムを設立する。
- ・ 柳原氏の着任に向けた準備 (雇用、信州大学との打ち合わせほか)